

フライウェイ・ネットワーク生息地情報票

記入の手引き

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・ネットワークに参加する生息地を推薦する管理機関は、生息地情報票を完成させてください。生息地情報票は、当該生息地の基本情報を提供すると共に、当該生息地がフライウェイ・ネットワーク参加地の選定基準を満たしているとする根拠を詳細に述べるものです。

生息地情報票は2部構成です。第1部(第1項から第14項まで)は当該生息地の基本情報についての項目で必須記入です。第2部は追加情報で任意記入です。

本生息地情報票はラムサール情報票に基づいています。フライウェイ・ネットワーク参加地に推薦されている生息地が既にラムサール条約湿地である場合は、文書作成プロセスを簡略化できます。その場合、国の政府機関パートナーは、既存情報票のコピー1部に本生息地情報票の質問第1項と第10項の詳細記述を付けて送付するだけでかまいません。

記入後、生息地情報票(および付随地図)をフライウェイ・パートナーシップ事務局に提出してください。記入者は、情報票の電子媒体(MS Word形式)および可能であれば電子媒体地図のコピーを提供してください。

第1部: 基本情報

1. 本情報票記入者の氏名および詳細連絡先:

本生息地情報票(以下、SISという)の記入者の氏名、所属機関/省庁名、住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス。

2. 本票記入年月日:

本SISの記入年月日(または更新年月日)。

3. 国名:

正式国名(短縮形)

4. フライウェイ・ネットワーク参加地の名称:

参加する生息地の名称を当該国言語と英語で正確に記入してください。参加認定証が授与される際には、本項で記入した名称がそのまま使用されます。現地語表記など代替名称は、正式名称の後にカッコに入れて記入してください。

5. 生息地の地図:

入手可能な範囲で最新版かつ適切な湿地の地図をSISに添付してください(紙媒体で、また可能であれば電子媒体も提出してください)。地図には当該生息地の境界を明確に記入してください。

6. 地理的座標(緯度と経度を「分」まで表記してください):

当該生息地のほぼ中心の座標、および/または生息地の境界線の座標を記入してください。当該生息地が複数の分かれた区域から構成される場合には、各区域の各座標を記入してください。

7. 海拔: (平均海拔および/または最高海拔と最低海拔をメートル表記してください)

8. 面積:

当該生息地の総面積をヘクタールで記入してください。分かれた構成区域の面積がわかる場合には、構成区域を識別・区別する名称(または標識)と共に各面積を記入してください。

9. 当該生息地の全体的概要:

当該生息地の概要を主な物理的・生態学的機能および渡り性水鳥にとっての重要性に言及して簡略に(2文以内で)記入してください。

10. フライウェイ・ネットワーク参加地の選定基準を満たしているとする根拠: 当該生息地がフライウェイ・ネットワーク参加地選定基準(添付文書 1)を満たすことを示す水鳥個体数の情報を以下のように記入してください。

- 当該生息地は、20,000羽以上の渡り性水鳥を定期的に支えている、または、
- 当該生息地は、渡り性水鳥の1つの種あるいは亜種の個体群において個体数の1%以上を定期的に支えている、または、
- 当該生息地は、渡り性水鳥の絶滅危惧個体群または危急個体群の相当数を支えている
- 当該地は5,000羽以上の水鳥を支える「渡来地」である、またはある種の個体群の0.25%以上の水鳥が当該地に渡来している

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップが網羅する渡り性水鳥個体群の一覧、および1%基準値は、エクセルシートファイル“Flyway spp & pop est 5_2_08.xls spreadsheet”にあります。

「渡来地」の基準は特に適用が難しく、この適用には事務局との協議が必要です。また、種によっては、フィールドでの判別が非常に困難な個体群が一部あることにも留意してください。

11. 湿地タイプ:

現在の湿地タイプの一覧を作成してください(添付文書 2 参照)。フライウェイ・ネットワーク 生息地における面積が大きい順に湿地タイプ一覧を作成してください。

12. 管轄:

州・地域などの領土上の管轄、および農務省・環境省などの職務・部門の管轄など。

13. 管理当局:

当該湿地を現地で直接に所管する機関または組織の現地事務所の名称と住所を記入してください。また可能な場合には、当該湿地を担当する現地事務所の担当者の所属および/または氏名を記入してください。

14. 参考文献表:

管理計画、主な科学的報告書、参考文献などがある場合には、当該湿地に関係する主要な技術参考資料の一覧を提出してください。また、当該生息地専用の、または当該生息地について主に取り上げている、機能している/更新されているホームページアドレスの一覧を最新更新日も合わせて記入してください。当該生息地についての出版物が大量にある場合には、最も重要な文献のみ引用してください。広範囲な参考文献目録が掲載されている直近の文献を優先してください。

第 2 部 – 任意記入

15. 生息地の物理的特徴:

地質、地形、起源(天然か人工か)、水文学的特徴、土壌タイプ、水質、水深、水の永続性、水位変動、潮汐の変化、下流域面積、全体的気候など、適宜記述してください。

16. 集水域の物理的特徴:

表面積、一般的な地質および地形的特徴、全体的な土壌タイプ、気候(気候型を含む)を記述してください。

17. 水文学的価値:

地下水涵養、洪水調節、堆積物の保持、汀線安定化などにおける当該湿地の機能および価値を記述してください。

18. 一般的な生物学的特徴:

当該フライウェイ・ネットワーク生息地の主な生息環境、植生の種類、動物群集、植物群落、また生息地の生態系サービスとそれに由来する恩恵を適宜記述してください。

19. 特記すべき植物相:

特定の種についての追加情報と特記すべき理由を記述してください。例えば、固有、稀少、絶滅危惧、生物地理学的に重要である種/群など。現存する種の分類表は本項には記載せず、本 SIS の補促情報として添付してください。

20. 特記すべき動物相:

特定の種について特記すべき理由に言及して(上掲第 10 項で記述した情報に適宜つけ加えて)追加情報を記述してください。現存する種の分類表は本項には記載せず、本 SIS の補促情報として添付してください。

21. 社会的・文化的価値:

a) 当該生息地が、何らかの一般的な社会および/または文化的価値を有する場合は記述してください。例えば、漁業生産、林業、宗教的重要性、考古学的遺跡、湿地との社会的関係など。ただし、歴史的、考古学的、宗教的重要性と現在の社会・経済的価値とは区別します。

b) 有形無形を問わず、生息地の起源や保全あるいは生態学的機能に関連する文化的価値の重要な例を保有することによって、当該生息地は、生態学的価値に加えて、国際的に重要であると考えられますか。

当該生息地の重要性を以下の範疇で該当する一つ以上について記述してください。

- i) 伝統的な知識や管理利用方法の適用が湿地の生態学的特徴を維持していることを実証する、湿地の賢明な利用モデルを提供している。
- ii) 湿地の生態学的特徴に影響を及ぼしてきた特別な文化的伝統やかつての文明の記録がある。
- iii) 湿地の生態学的特徴が地域社会や先住民との相互作用に依存している。
- iv) 聖地などの無形価値があり、その存在が湿地の生態学的特徴の維持に密接に関係している。

22. 土地保有権/所有権:

- a) フライウェイ・ネットワーク生息地内:
- b) 周辺地域内:

23. 現在の土地(および水)利用:

- a) フライウェイ・ネットワーク生息地内:
- b) 周辺地域、集水域内:

24. 土地(および水)利用の変更、開発計画等、湿地の生態学的特徴に悪影響を及ぼす要因(過去、現在、将来):

- a) フライウェイ・ネットワーク生息地内:
- b) 周辺地域内:

25. 実施されている保全策:

a) フライウェイ・ネットワーク生息地との境界関係を含めて、国レベルおよび/または国際レベルでの保護区の種類と法的地位を記入してください。

特に、一部あるいは全域が世界遺産やユネスコの生物圏保存地域に指定されている場合には、指定区域の名称を記入してください。

b) 該当する場合は、生息地に適用する国際自然保護連合(IUCN)保護地域分類(1994年版)を記入してください(該当する□に適宜チェック印(✓)を入れてください。複数回答可)。

Ia ; Ib ; II ; III ; IV ; V ; VI

c) 正式承認された管理計画はありますか。それは実施されていますか。

d) 他の現在の管理実施について記述してください。

26. 提案済みだが実施に移されていない保全策:

例えば、策定中の管理計画、法的保護区とする正式提案など。

27. 科学的研究および施設の現状:

例: 生物多様性モニタリングなど現行の研究プロジェクトの詳細、現地調査事務所の有無など。

28. 当該生息地に関連する、または有益である広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の現状:

例: ビジターセンター、観察小屋、自然観察路、情報冊子、児童・生徒のための見学用施設など。

29. レクリエーションと観光の現状:

当該湿地がレクリエーションや観光に利用されている場合には、その種類、頻度や利用度を記述してください。

添付資料 1: フライウェイ・ネットワークの参加地選定基準

(パートナーシップ規約から抜粋)

生息地のフライウェイ・ネットワーク参加について検討するために、本パートナーシップは、以下の基準を採用しています。

- a. 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール、イラン、1971年)の以下の選定基準。
 - 基準 2: 危急種、絶滅危惧種または近絶滅種と特定された種、または絶滅のおそれのある生態学的群集を支えている場合には、国際的に重要な湿地とみなす。
 - 基準 5: 20,000羽以上の水鳥を定期的に支えている場合には、国際的に重要な湿地とみなす。
 - 基準 6: 水鳥の一つの種または亜種の個体群において、個体数の1%を定期的に支えている場合には、国際的に重要な湿地とみなす。
- b. アジア太平洋渡り性水鳥保全戦略で適用されている渡来についての以下の基準。
 - i. 渡りにおいて、水鳥の1つの種あるいは亜種の個体群において、個体数の0.25%を定期的に支えている場合には、国際的に重要な渡来地とみなす。
 - ii. 渡りの期間中、一度に5,000羽以上の水鳥を定期的に支援している場合には、国際的に重要な渡来地とみなす。
- c. 例外的状況として、フライウェイ個体群維持のために重要な渡り性水鳥の生活環のあるレベルまたは段階において渡り性水鳥を支えている場合には、その生息地を推薦することができます。このような推薦の根拠については、パートナーシップが一件ごとに検討します。

添付資料 2:ラムサール条約湿地分類法

下記のコードは、勧告 4.7によって承認され、締約国会議の決議 VI.5 および VII.11 によって修正されたラムサール条約湿地分類法に基づいています。ここに掲げる分類は、各条約湿地が表す主要な湿地生息地を速やかに特定できるよう大まかな枠組みを提示するものです。

生息地情報表の第 11 項に湿地タイプを掲載するに当たり、正確な湿地タイプを特定できるよう、事務局は、海洋沿岸域湿地と内陸湿地について各湿地タイプの特徴の一部をまとめた下記一覧表を提供しています。

海洋沿岸域湿地

- A -- 低潮時に6メートルより浅い**永久的な浅海域**。湾や海峡を含む。
- B -- **海洋の潮下帯域**。海藻や海草の藻場、熱帯性海洋草原を含む。
- C -- **サンゴ礁**。
- D -- **海域の岩礁**。沖合の岩礁性島、海崖を含む。
- E -- **砂、礫、中礫海岸**。砂州、砂嘴、砂礫性島、砂丘系、砂丘のくぼみにできる湿地を含む。
- F -- **河口域**。河口の永久的な水域とデルタの河口域。
- G -- **潮間帯の泥質、砂質、塩性干潟**。
- H -- **潮間帯湿地**。塩性湿地、塩水草原、塩性沼沢地、塩生高層湿原、潮汐汽水沼沢地、干潮淡水沼沢地を含む。
- I -- **潮間帯森林湿地**。マングローブ林、ニッパヤシ湿地林、潮汐淡水湿地林を含む。

J -- 沿岸域汽水/塩水礁湖。少なくとも1カ所比較的狭い海との連結部がある汽水から塩水の礁湖。

K -- 沿岸域淡水潟。三角州の淡水潟を含む。

Zk(a) -- 海洋沿岸域カルストおよび他の地下洞窟性水系。

内陸湿地

L -- 永久的内陸デルタ。

M -- 永久的河川、溪流、小河川。滝を含む。

N -- 季節的、断続的、不定期な河川、溪流、小河川。

O -- 永久的な淡水湖沼(8haより大きい)。大きな三日月湖を含む。

P -- 季節的/断続的淡水湖沼(8haより大きい)。氾濫原の湖沼を含む。

Q -- 永久的な塩水、汽水、アルカリ性の湖沼。

R -- 季節的、断続的な塩水、汽水、アルカリ性の湖沼および干潟。

Sp -- 永久的な塩水、汽水、アルカリ性の沼沢地、水たまり。

Ss -- 季節的、断続的な塩水、汽水、アルカリ性の沼沢地、水たまり。

Tp -- 永久的淡水沼沢地、水たまり。池(8ha未満)、少なくとも成長期のほとんどの間浸水した抽水植生がある無機質土壌上の沼沢地や湿地林。

Ts -- 無機質土壌上にある季節的、断続的な淡水沼沢地、水たまり。沼地、ポットホール、季節によって冠水する低湿地、ヨシ沼沢地を含む。

U -- 樹林のない泥炭地。灌木のある、または開けた高層湿原、湿地林、低層湿原。

Va -- 高山湿地。高山草原、雪解け水による一時的な水域を含む。

Vt -- ツンドラ湿地。ツンドラ池、雪解け水による一時的な水域を含む。

W -- 灌木の優占する湿原。無機質土壌上の、低木湿地林、低木の優占する淡水沼沢地、低木カール、ハンノキ群落。

Xf -- 淡水樹木優占湿原。無機質土壌上の、淡水沼沢地、季節的に冠水する森林、森林性沼沢地を含む。

Xp -- 森林性泥炭地。泥炭沼沢地林。

Y -- 淡水泉。オアシス。

Zg -- 地熱性湿地。

Zk(b) -- 内陸のカルストおよび他の地下洞窟性水系。

注記:「氾濫原」とは、一以上の湿地タイプを表すのに用いられる広義の用語であり、R、Ss、Ts、W、Xf、Xp等のタイプの湿地を含みます。氾濫原湿地の例としては、季節的に冠水する草原(水分を含んだ天然の牧草地を含む)、低木地、森林地帯、森林等があります。ここでは、氾濫原湿地を一つの湿地タイプとしては扱いません。

人工湿地

1 -- 水産養殖池(例:魚類/エビ)。

2 -- 池。農業用ため池、牧畜用ため池、小規模な貯水池(一般的に8ha以下のもの)。

3 -- 灌漑地。灌漑用水路、水田を含む。

4 -- 季節的に冠水する農地(集約的に管理もしくは放牧されている湿性の牧草地もしくは牧場を含む)。

5 -- 製塩場。塩田、塩水湖等。

6 -- 貯水場。貯水池、堰、ダム、人工湖(一般的に8haを超えるもの)。

7 -- 採掘場。砂利、レンガ土、粘土採掘坑。土取場の採掘坑、採鉱場の水たまり。

8 -- 廃水処理区域。下水処理場、沈殿池、酸化池等。

9 -- 運河、排水路、水路。

Zk(c) -- 人工のカルストおよび他の地下洞窟性水系。